

米山奨学生紹介

2022-23年度米山奨学生

周宇翔

北海道文教大学・札幌はまなすRC

「語学力を強みに」

私は北海道文教大学グローバル研究科2年生の周宇翔と申します。大学生の時は国際言語学科観光ビジネスコースに所属していましたが、自分はマーケティング貿易と経営運営に関心を持っております。大学4年間はそれに関わる課程に取り組んだ結果、マーケティング論、経営戦略論と経営学概論は沢山知識を吸収しました。長年の留学経験（日本、オーストラリア）は私の語学力を大いに向上させました。日本語だけではなく、中国語、英語で日常会話やビジネス会話をなめらかにすることもできるようになりました。授業の余暇には、当地の小中学校のコミュニケーションイベントに参加して、各年齢層との交流経験を得ました。

HBU 北海道文教大学



大学期間はバスケットボール部に入って、部活に参加して周りの先輩に支えてもらいながら一緒に練習し、チームワークの精神を感じました。北海道の大学バスケットリーグ戦まで参加しバスケットで活躍したり、積極的に部活に参加したりすることによって、唯一の外国人部員でありながら、他の部員たちの信頼を得て、愉快的雰囲気に入れ込みました。他にも大学期間は友人の外国語塾でアルバイトしながら、日本の職場経験を積んでいます。

私の大学院研究課題は飲食に関する慣用表現において用いられている言語表現そのものに焦点を当て、分析を行っています。慣用句は会話や文章で使うと、表現の幅を広げることができ、慣用句の表現内容を理解できれば、コミュニケーションがスムーズになります。言語における慣用句対照研究では、これまで民族性や文化・歴史、あるいは地理的条件などに基づくものが多く見られますが、言語表現そのものを分析対象として扱った研究は、それほど多いとは言えないからです。

今年大学院を卒業する留学生にとって、就職活動は学生時代最後の戦いと言っても過言ではありません。これからの就活経験が一生役に立つと思います。特に現在の日本において、就職活動は大変厳しく、特に留学生にとっては更なる厳しい状況となっています。留学生を採用する企業は多いですが、高い日本語能力が要求され、語学力は採用結果を左右しています。留学生にとって、言語という壁が高く、自分の希望通りに就職することは容易ではありません。留学生が日本で就職する夢を実現するためには、日本語能力以外にもさまざまな技能を身に付け、なんらかの対策を考える必要があります。それは良いチャンスであるとともに、チャレンジ精神が必要です、そこは覚悟をすべきです。現在就職の内定を決めた後でも、自分のキャリアが始まります。内定をもらったとしても、異文化理解と語学力の強みを発揮できるかどうか、将来はどんな人間になりたいかなどの課題を事前に考えておくべきで、そうすると就職も将来のキャリアも、よりもっと順調に進めると思います。もしこれから仕事でつまづいていても、それは失敗ではありません。なぜかという、失敗は成功のもとだと強く信じているからです。これからも頑張ります。



2022-23年度米山奨学生

「有意義な奨学生生活」

孔莉君

小樽商科大学・小樽南RC

皆様、こんにちは。小樽南ロータリークラブにお世話になっております孔莉君と申します。現在は小樽商科大学現代商学専攻の大学院2年生です。今年は日本に住んで3年目になり、日本の生活にはもう慣れました。私の故郷はめったに雪が降らないので、小樽に引っ越してきたときは大きな喜びと期待でいっぱいでした。最初は小樽に引っ越しても友達がいないので、居心地が悪く、少し寂しかったのですが、学校の国際交流会館に移ると、世界各国の友達ができました。そして、いろいろな国の習慣や文化に触れ、イベントに参加して、たくさんのことを学ぶことができました。

私の研究内容は職場におけるインクルーシブ・リーダーシップと従業員の心理的安全性及びその効果に関する研究です。「最高のチームを作る要因は何か」を突き止めるためにGoogleが2012年から約4年をかけて社内で行った実験「アリストテレスプロジェクト」で、チームの生産性やパフォーマンス向上に必要な要因のひとつとして「心理的安全性」があるという結果が公表されました。今まで「阿吽の呼吸」や「空気を読む」ことを大切にしてきた日本人に対して、心理的安全性を作るのが難しいのではと考えたので、このテーマを選びました。

米山奨学生としての期間も、あっという間にあと一か月となりました。間違いなく、この1年間は私の今までの留學生活の中で最も充実した1年間だと思います。私は米山奨学生になってから、たくさんのロータリアンと交流ができて、日本文化と社会知識の勉強になって、とても有意義な奨学会だと思います。毎月例会に参加させて頂くことによって、皆さんの奉仕精神を凄く感じました。皆さんのお話を聞いて、ロータリー精神にも徐々に理解できました。そこで、自分は日本と中国の懸け橋になるだけでなく、将来的に社会に貢献し、世界平和のために寄与できる人間になることが期待されていると感じております。

また、ロータリー米山奨学金のおかげで安心して活動に励むことができました。修士論文も合格して、仕事も決めました。4月から札幌の西山製麺株式会社で働く予定です。私は北海道の美味しいラーメンを日本全国だけではなく、海外のお客様にも届けるようにがんばります。最後に、米山奨学生になって凄く幸運だと思っています。優しいロータリアンと出会い、たくさんのお話ができて、仲良くなったような感じがして非常にうれしいです。この縁が繋がりになって奨学生終了後でも、ずっと続けていきたいと考えております。

NIKI Hills Wineryの見学



2022-23年度米山奨学生

「タイと日本の架け橋に」

ナムプラデット・スパーポン
酪農学園大学・岩見沢東RC

初めて日本の文化に触れたのは高校時代であり、これが日本語を勉強するきっかけとなりました。そして、大学時代にはタイの大学で第2外国語として日本語を選択し、さらに勉強を続けました。そうするうちに、自分の日本語能力を向上させたいという思いと、日本の獣医学ではどのような授業をしているのかという興味を強く抱くようになり、機会があったら日本に留学して獣医学を学びたいと思うようになっていました。大学6年生のとき、酪農学園大学にて3ヶ月間の交換留学をする機会があり、興味のある腫瘍学を学びました。数多くの症例と様々な治療法や診断方法を間近で体験し、日本の獣医療はタイより進んでいるということを感じました。さらに、一番感動したのは大学で働く先生方の治療に対する熱意でした。このことがきっかけで酪農学園大学院の獣医臨床腫瘍科で博士課程を修めようと決めました。

2017年にタイで学部を卒業して、約1年半タイ国内の動物病院で臨床獣医師として伴侶動物の診療を経験しました。そして、2019年に酪農学園大学院に入学しました。現在は、犬の悪性黒色腫に対する抗腫瘍ウイルス療法についての研究を行っています。犬の口腔内の悪性黒色腫は、腫瘍の中でも発生しやすく、転移しやすい特徴がありますが、治療法は困難とされています。現在の治療法は外科治療または放射線療法が主流であり、最近、免疫療法などの補助療法も応用されるようになりましたが、まだ発展途上です。そのため、新しい治療法を検討する必要があります。

現在、自分の実施した研究の情報を収集し、参考論文作成に取り組んでいます。「口腔内黒色腫細胞に対する組換えニューカッスルウイルスの腫瘍溶解効果」というテーマで海外雑誌に論文を投稿中です。さらに、犬における口腔内悪性黒色腫に対する治療目的での外科的切除の回顧的研究・外科的切除を行った眼窩髄膜腫の症例についても年内に臨床研究の情報を収集し、論文投稿に向けて準備を進めていく予定です。

また、研究と並行して臨床症例のデータを収集するため、附属動物医療センター腫瘍科の診療に参加しています。2019年10月には上海で行われた獣医学会にて犬22例における未分化及び分化型の線維肉腫に対する上顎・下顎切除の予後についてポスター発表を行いました。その他にも、複数の学外の動物病院でも実習を行い、幅広い症例に対応できる能力を身につけています。残りの大学院生活では、さらに臨床経験も積み、特に腫瘍外科について重点的に学び、有意義な日々を送りたいです。

現在のタイの獣医療は世界各国と比較すると多くの分野が発展途中であり、中でも高度な外科技術を持つ外科専門医や腫瘍の診断治療に精通する腫瘍科専門医は多くありません。卒業後は、タイの大学の動物病院腫瘍科にて勤務し、日本で得た腫瘍における臨床及び研究の知識を生かして、母国に貢献したいと考えています。また、タイと日本の獣医学部の学生間交流を発展させるために、交換留学などのプログラムを立ち上げることにも力を入れたいです。さらに、日本の新しい知見を常に取り入れるなどタイと日本の架け橋となる獣医師になるため、日本獣医師国家試験合格を目指します。北海道は私にとって第二の故郷です。

